

JANS 若手の会 第3回関西エリア検討会 報告書

研究につなぐための省察的实践

2024年1月27日（土）に、第3回関西エリア検討会を第1部ハイブリッド（現地・オンライン）、第2部を現地開催いたしました。本検討会の目的を①講義で新しい知識を得る、②講師の三輪先生との交流会を通し、日々のモチベーションアップにつなげる2点とし、2部制にて企画しました。

第1部は『研究につなぐための省察的实践とは・・・』というテーマで、講師に星槎大学大学院教育学研究科特任教授 三輪建二先生を講師にお招きし、参加者60名（現地18名、オンライン42名）で開催しました。看護における省察とは何か、実践での暗黙知の省察・言語化をどのように行い、リサーチクエスチョンを導き出し、どのように研究につなげていくのかという、充実した内容でした。

第2部は『三輪先生との交流会』を現地参加者16名で開催しました。4グループに分かれ、グループワークを実施し、自己紹介、研究テーマ、学会発表時の有意義な質疑応答を行う方法、リフレクションの取り組み方等のディスカッションを行い、三輪先生よりご助言をいただきました。

参加者アンケートからのコメント（一部）

- ・研究活動や実践など日々リフレクションであり、コミュニケーションによって、リフレクションが深まり、気づきが生まれると感じた。
- ・教員として、看護に関する事柄全般を人に説明する際に、言葉の抽象度が高くなり、色々な側面から説明できるように述べていくことで、まわりくどくなる傾向にあることに悩んでいたが、今回の講演で自分の傾向を知った上で言語化することを絞り込んでいく思考過程を行うことの重要性、またそれは時間をかけるほど洗練されていくことを理解した。
- ・先行研究が少なくても、日々の省察の中から導き出すことが可能であることと研究テーマを省察的に絞れることが理解できた。
- ・自身の研究もさることながら、学生の研究指導をする際に、研究動機やそれに繋がる臨床での体験を、丁寧に聞き取りながら進めていくことの大切さを再認識できた。
- ・看護初学者の未知の世界への専門職（看護）観・探究心を導く支援者（教員、指導者）が学生にとっての「自分の師」になりうること。看護職の魅力が伝えられる教員になりたいと思った。



関西エリア・コーディネーター

野寄亜矢子, 伊東由康, 岡本留美, 吉川あゆみ, 和辻雄仁, 飯田恵子（文責）